



モノづくりとダイバーシティー  
—多様化する金型・部品の製造現場—

# タイからの「逆駐在」で金型の設計・ 製造でエキスパート職を目指す

## 本田技研工業(株)

本田技研工業（ホンダ）は、2000年以降、女性採用枠の拡充などをはじめとしたダイバーシティー、およびサステナブル環境の整備を進め、「人材多様性のありたき姿」の実現に向けてロードマップを作成してきた。ありたき姿とは「多様な属性・価値観を持つ“個”が活き活きと輝くことで企業総合力の最大発揮をめざす」姿を指す。

ロードマップの第1ステージとなる2015年から2017年の「意識醸成期」は、国内における同社の課題である女性活躍拡大を中心に推進した。その後の

2018年からは「進化・拡大期」として対象を拡大し、性別、年齢、人種、国籍、文化、宗教、性自認、性的指向などを包摂した多様な個が活き活き輝く、ダイバーシティー環境の整備を推し進めている。

具体的目標数値としては、①女性役職者数を2025年には2020年度の3倍、2030年には4倍にする、②新卒採用者に占める女性割合を2025年までに20%以上とする、③男性育児休職取得率を2025年までに30%以上とするなどを掲げ、取組みの効果は着実に上がっている。

一方、グローバル人材の採用数は19人（2018年度）から13人（2020年度）と減っており、グローバル化に即した人材登用・育成が課題となっている。それに対して同社では、海外社員が日本で技術研修を行う「逆駐在」制度を2020年から導入した。同制度は、グローバル人材の登用と育成の一環として実施され、海外拠点で日本と同じ品質を保証する「世界同一品質実現」のカギを握っている。

逆駐在第1号となったのが、タイの現地法人で金型設計を担当するケームカセーム タナコーンさんである。海外の製造部門における技術全般の指導ができるエキスパート職の第一号を目指す。それゆえタナコーンさんにかかる期待は大きい。

タナコーンさんは2020年1月に来日。現在、栃木県芳賀町にある四輪事業本部ものづくりセンターの生産技術統括部金型生産部プレス金型設計課でプレス金型の構造設計を担当する。

上司の坂井裕 GL によれば、逆駐在という形での海



生産技術統括部 金型生産部 プレス金型設計課  
ケームカセーム タナコーンさん

### 会社概要

本田技研工業(株)  
二輪車、四輪車および汎用エンジンや耕うん機、発電機などのパワープロダクツを製造・販売。

本社：東京都港区南青山2-1-1

URL：<https://www.honda.co.jp>